令和３年度 学 校 評 価 書　東温市立川上小学校

令和４年２月４日

１　学校の教育目標
未来を拓き、ともに生きる川上っ子の育成
２　経営の基本方針
○**協育**　みんなが協力して育てる学校　○**共育**　互いに教え、教えられ共に育つ学校　○**響育**　互いの心が響き合う学校　○**郷育**　故郷に育まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
（目指す児童の姿）　かわすあいさつ　わかち合う心　かんがえ、聴き合う力　みんなで創り、踏ん張る力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価 教職員	評価 児童	評価 保護者	考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努めた。	3.3	3.7	3.2	【考察】 ○　児童に対して教職員から積極的に声を掛け、一人一人のよさや頑張りを認めるようにしている。また、毎学期実施している学校生活調査や毎月の学校生活アンケートの結果を基に、教育相談の充実に努めたり、関係機関との連携を図ったりするなど、いじめ・不登校等の未然防止、早期発見、迅速な対応に取り組んでいる。毎日の生活で挨拶や時間厳守、物の整理・整頓等に心掛けている児童が多くいる。 【改善方策】 ○　ハンカチやティッシュの持参、名札の着用などの身だしなみについては、より一層の声掛けや確認が必要であると感じている。一人一人の児童に寄り添い、保護者の方と情報を共有しながら、学級担任をはじめとした複数の関係教職員で組織的に対応していく。	○　生徒指導においてはいつも迅速に行動してくださることに感謝している。（危険箇所について連絡する） ○　いじめ・不登校の対応について、保護者の思いと学校側の思いに差がある。保護者支援を考える必要がある。 ○　いじめに関しては、少数意見をくみとるアンテナを常に張っておくようにしたい。 ○　基本的生活習慣の定着は、学校の支援だけで身に付くことではないので、家庭と連携しながらすすめていっていただいたらと思う。
	基本的生活習慣の定着	挨拶や時間を守ること、整理・整頓などの定着に努めた。	2.8	3.2	3.1		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、報告・連絡・相談による情報共有に努め、組織として生徒指導を行った。	3.4	3.3	3.4		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	各種学習プリントの活用や「漢字の広場」「計算の広場」「朝の読書」を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.3	3.3	3.4	【考察】 ○　「言語活動の充実」については、三者ともに上位群の数値が上昇しており、総じて「ことりタイム」などの取組が言語活動の充実につながってきている。教職員の結果からも、対話的な学びを取り入れようとする意識の向上が見られる。 【改善方策】 ○　時間や場所を決めて学習を習慣化していくことは、児童の学習への自信につながるので、家庭でも声掛けをお願いする。学校でも、授業だけでなく朝学習なども通して、学習の習慣化に努める。 ○　「ねらいを明確にした分かる授業」「子ども主体の考える授業」となるよう①課題探求型の学習課題の設定、②「ことりタイム」の充実、③タブレット端末の利活用等に１学期から取り組んできた。積極的に授業に参加する姿や課題を協働して解決しようとする姿が増すとともに、授業終末には児童自ら「まとめ」を考えるようになってきている。今後、更に授業改善を進めていく。	○　児童の評価が一番高い。児童自身はやっていると感じているので、そこは十分認め、伸ばしてほしい。 ○　家庭学習においては、学校側は家庭学習ノートやがんばりカード等、啓発している様子がうかがえる。 ○　「ことりタイム」の取組がすばらしいと思う。思考力、判断力、表現力の全ての育成のプラスになるし、児童同士でのお互いを認め合う育成につながると思う。 ○　家庭学習を児童だけでもやれる内容を取り組むことで、自信につながれば学力向上を図ることができるようになるのではないか。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、主体的に学ぶ態度を高めるなど、家庭学習の充実に努めた。	2.9	3.1	2.9		
	言語活動の充実	思いや考えを聴き合う「ことりタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、聴き合う力（プレゼンテーション力・他の人の意見（思い）を受け止める、自分の意見（思い）を他の人に伝える）の育成した。	3.2	3.5	3.3		
	思考力の育成	課題究求型の学習課題を明示し、授業展開を工夫することで、児童に思考力・判断力・表現力等の育成した。	3.0				
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合う心、仲間とわかち合う心（コラボレーション力・だれとでも一緒に仕事（活動）ができる）を養った。	3.0	3.6	3.3	【考察】 ○　学校をよりよくするために「気づき、考え、実行する」よう委員会活動の充実に心掛けた。児童から様々なアイデアが出てきて、放送等で呼び掛けながら実践するなかで、奉仕・協働の精神を培うことができてきている。 ○　ＩＴスタジアムに積極的に参加するなど、活動内容を工夫し、体力・運動能力の向上を図っている 【改善方策】 ○　道徳の授業を中心とした全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合うことを大切にし、仲間と分かち合う心（コラボレーション力）を育んでいく。 ○　学級担任や栄養教諭の継続した給食指導や、給食委員会からの食育に関する啓発等を行っていく。家庭においても、児童の好き嫌いを見直し、食べることの役割や大切さ、楽しさが伝わる工夫を引き続きお願いするとともに、様々な料理に触れ、食経験を増やしていただけるよう啓発していく。	○　運動場で元気に遊んでいる姿を見ると、コロナに負けずに頑張っているなと勇気をもらえる。 ○　今年も拍手で持久走大会を応援したが、児童たちは頑張っていた。 ○　コロナ禍で行事なども制限される中、仲間づくり、集団づくりなどを成果としてあげるのは、先生方が本当に大変な思いをされていると思う。行事がなくても「ことりタイム」などを通して、児童の豊かな心は育っていると思われる。 ○　保護者アンケートが学校の取組を評価する内容になっていないように感じる。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、みんなで創り、踏ん張る力（イノベーション力・仲間と共に新しいことに進んで取り組む・少々のことではくじけない）を育成した。	2.9	3.5	3.4		
	健康づくり・体力つくり	自らの健康に関心をもたせ、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康の精神を培った。また、体力面の課題を把握し、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.2	3.4	3.5		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心をもたせ、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	2.8	3.4	3.1		
特別支援教育	特別支援教育の充実	児童一人一人に応じた学習指導や生活支援に努めた。	3.1	3.5	3.2	【考察】 ○　本年度から取り組んでいる「ことりタイム」の「こ」は「困ったら聴き合おう」として「困り感に寄り添う学び」「誰もひとりにしない学び」の実現を目指し、授業実践をしてきた。分からないことが分からないと普通に言えたり、間違えを恐れずに発言したりする児童が増えてきている。 【改善方策】 ○　より学びやすく、生活しやすくなるユニーバーサルデザインの学級・授業経営の改善に取り組んでいく。	○　個に対応することは大事だと思う。その中で、社会で生きていく力を育てることをしっかりやってほしい。 ○　児童は満足している。評価が高いのがよい。 ○　特別支援コーディネーターの先生を中心に、養護の先生、支援員さんなど、学校がチームとなって連携をとってされていると思う。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	登下校の安全確保に努めるなど、家庭や地域・関係機関と連携して児童をまもり育てた。	3.5	3.7	3.6	【考察】 ○　登下校の安全確保に関しては、保護者の方や地域の方の見守り、教職員の登下校指導など、見守り活動を行うことで大きな事件や事故なく登下校することができている。 【改善方策】 ○　新型コロナウイルス感染症対策のため、災害時の引き渡し訓練が実施できていないが、様々な緊急事態を想定した訓練の実施時期及び内容や方法について検討していく。	○　毎朝、校舎近くの交差点に、たくさんの先生方が見守りをされていて、すばらしいと思う。児童も班ごとにまっすぐ並んで登校しており、気持ちがよい。 ○　学校安全、防災、コロナ対策など、気を配らなければならない状況が続いている。よりよい備えと判断が必要である。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.2	3.9	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。また、学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」を進める中核としての機能を果たした。	3.6	3.5	3.5	【考察】 ○　学校運営協議会や協働活動サポーターと連携・協働し、児童の教育活動を支えている。 【改善方策】 ○　今後も川上小学校の校訓でもある「健康・奉仕・親善」が実現するよう、全教職員で共通理解を図り、家庭・地域と協力しながら活動を進める。 ○　「校報　かわかみ」や学年だより、本校のホームページなど発信する情報の充実に努め、本校の教育活動についてより理解していただけるように啓発をしていく。	○　地域の人々との関わりができているのは、先生方の姿勢や頑張りがあるからだと思い、感謝している。 ○　日々、工夫した教育活動が実践されている。 ○　運営協議会の内容も、ますます地域に密接したものになってきており、学校、家庭、地域の連携がとられていると思う。
	ＰＴＡ活動への協力	各種ＰＴＡ活動に参加したり、協力したりした。	2.5		3.4		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、学校・家庭・地域が息の合った教育活動を推進した。	3.2		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やＪＲＣ活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.1	3.3	3.1	【考察】 ○　朝のボランティア活動や清掃活動に、１年から６年まで多くの児童が主体的に取り組んでいる。 【改善方策】 ○　代表委員会を中心に「地域で進んで挨拶をする」という課題を全校で考えている。出たアイデアを実践していく。	○　赤十字の精神は、何十年も続いている。高学年が手本となって行動、活動してくれていることをうれしく思う。
	挨拶運動	校内や地域で進んで挨拶を交わす児童（コミュニケーション力・だれとでも意見交換ができる）を育成し、親善の精神を培った。	2.7	3.5	3.2		
施設・設備の充実	ＩＣＴの有効活用	タブレット端末やＩＣＴ機器を有効に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	2.9	3.6	3.3	【考察】 ○　児童は授業でタブレット端末を積極的に利活用するように、教職員はＩＣＴの研修に努めている。スーパーマーケット等の見学や学校保健委員会の講演をウェブ会議で行うなど、コロナ禍でもＩＣＴを活用し、学びの保障をすることができた。 【改善方策】 ○　季節感のある校内掲示や栽培活動を行っていく。そのために、学校運営協議会委員や協働活動サポーターの皆様の協力を得ながら、明るく、気持ちのよい環境づくりに努める。 ○　不登校傾向の児童のなかにはウェブ会議システムを活用し、授業の様子を見ている児童もいる。今後は、新型コロナウイルス感染症対策として、自宅待機になった児童のタブレット端末等の使用を検討していく。そのために全児童がタブレット端末を家庭に持ち帰り、使用練習できるよう準備していきたい。	○　いつもきれいで清潔感がある。 ○　学校訪問しても、掲示の工夫、環境整備がされている。 ○　東温市全体の改善点とは思うが、ＩＣＴ機器を家庭でも活用できるよう進めてもらったらと思う。不登校傾向の児童にどう活用できるのかも検討していただけたら有り難い。
	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心･安全な教育の場づくりに努めた。	3.4	3.7			
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.3		3.4		